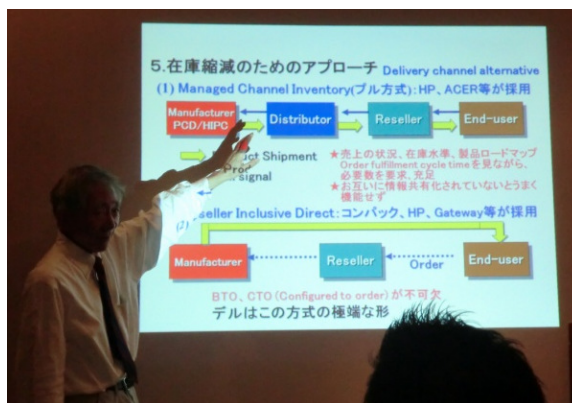
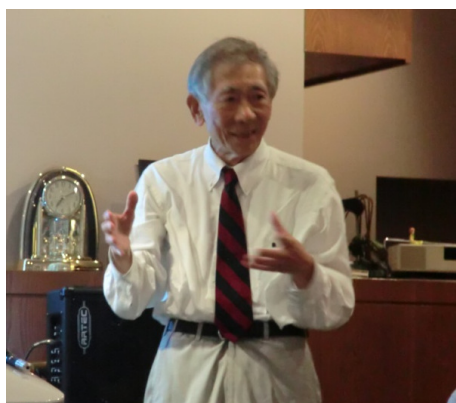


NPOマネジメント共育ネットワーク
第9回経営寺子屋
「サプライチェーンマネジメントの本質」

講師: 関島康雄氏
3Dラーニング・アソシエイツ代表



MCN と創発倶楽部が共催する経営寺子屋第9回は6月 17日、Platform 南青山に3Dラーニング・アソシエイツ代表の関島康雄氏をお招きし、いまや多くの企業の経営の要ともなったサプライチェーンマネジメント(以下SCM)について講演いただいた後、参加者との質疑応答を行った。その要旨は以下の通り。

SCMは一般的に、「部品や材料を必要な時に必要な量だけ確保する仕組みや対策」と理解されているが、それに止まらず、「皆が(営業、本社、工場、ベンダーも)(生産、管理、資材、勤労、経理も)共通のデータを見ながら一喜一憂する仕掛け」と考えている。これには、経営をシステムとして考え、戦略的な方針が皆に共有されていることが前提となる。

日本企業は現在多くの問題点を抱えているが、上記の視点で見ると、特に仕事の仕方にシステムを合わせるのではなく、システムで仕事を合わせるという発想の転換が求められている。

続いて 1990 年代後半、アメリカで日立製作所の子会社トップとして奔走したPC事業の立て直しの事例からは、その核としてのSCMの進捗に伴って増加したキャッシュフローによって、いかにそれが経営の要諦であるかが分かる。

最後に、SCMは思想であってITシステムではないこと、ビジネスモデル(顧客はだれか?顧客に提供する価値は何か?どうやって儲けるか?)への関係者の深い理解と広い情報共有がいかに重要であるかを改めて確認する。



以上